

一般社団法人 岩の力学連合会
平成 29 年度・第 3 回常任理事会 議事録

日時	平成 30 年 1 月 29 日 13:00～17:30	場所	資源・素材学会会議室
----	------------------------------	----	------------

常任理事会	理事長	新 孝一	○	副理事長 (賞選考)	岸田 潔	●	幹事長 (総務)	岡田 哲実	○
	常任理事 (編集) (地盤)	谷 和夫	○	常任理事 (資源・素材)	伊藤 高敏	○	常任理事 (土木)	清木 隆文	○
	常任理事 (材料)	西村 強	●	常任理事 (前幹事長)	長田 昌彦	○	常務理事 (国際技術)	横尾 敦	○
	常務理事 (電子 J)	児玉 淳一	×	常務理事 (RockNet)	小山 倫史	×	常務理事 (賛助会員 特別会議)	奥野 哲夫	○
	オブザーバ	清水 則一	○	オブザーバ	安原 英明	●	オブザーバ	藍檀 オメル	○
	事務局	富田 明日香	○						

敬称略順不同, ○:出席, ×:欠席, ●:スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 29-常任 3-01	1	平成 29 年度・第 2 回常任理事会議事録 (案)
資料 29-常任 3-02	6	平成 29 年度・第 2 回理事会議事録 (案)
資料 29-常任 3-03	11	会員の入退会
資料 29-常任 3-04	15	国際技術委員会
資料 29-常任 3-05	23	電子ジャーナル委員会
資料 29-常任 3-06	24	賞選考委員会
資料 29-常任 3-07	26	賛助会員特別会議
資料 29-常任 3-08	48	ILC 研究企画特別委員会
資料 29-常任 3-09	59	委員会予算関連
資料 29-常任 3-10	60	国際シンポジウム Rock Dynamics
資料 29-常任 3-11	72	国際シンポジウム YSRM2019
資料 29-常任 3-12	88	将来構想フリーディスカッションメモ
資料 29-常任 3-13	92	ISRM Muller Award の推薦
資料 29-常任 3-14	当日配布	編集委員会

【議 題】

1. 第 2 回常任理事会議事録の承認※ (岡田) 資料 29-常任 3-01
修正なく議事録は承認された。

2. 第 2 回理事会議事録の確認 (岡田) 資料 29-常任 3-02
議事録に対して以下の質疑があった。

Q. Rock Dynamics のシードマネーが 140 万円と記載があるが, 150 万円が正しいのではないか。

A. 150 万円が正しいので, 議事録も 150 万円と修正する。

Q. この 150 万円の基金の取り崩しは既に行われているのか。

A. 総会資料によると今年度予算として 40 万円を基金から取り崩している。よって次年度は, 残りの 110 万円を取り崩すことになると思う。

3. 国際シンポジウム YSRM2019 について (安原) 資料 29-常任 3-11
シンポジウムの企画書および予算案について説明があり, 以下の質疑があった。

- C. 組織委員会の委員として、各学会（土木、地盤、資源、材料）からの選出理事を1名ずつ推薦していただきたい。また、運営幹事会のメンバーとして、ゼネコンの若手を推薦していただきたい。
- C. 土木学会については、既に理事長、副理事長が委員であることから、新たには必要ないと思われる。地盤工学会については西松建設の斎藤理事に、資源・素材学会については児玉理事に、材料学会については芥川理事にお願いすることにしてはどうか。ゼネコンの運営幹事については、ゼネコンの組織委員である横尾理事、奥野理事、鈴木さん、青木さんと調整して決めることにしてはどうか。
- C. 電力、土研、水資源機構、鉄道運輸機構からの推薦はあるか。
- C. この場に当事者がいないので、今決めるのは難しい。大きな方針があればこの場で決めて、特になければ、組織委員会の委員長と相談しながら決めて、理事会に報告することにしてはどうか。
- C. 理事会からは特に意見はないので、安原幹事長が清水委員長と相談して決めていただき、決まったら理事会に報告していただくこととする。
- C. 沖縄の人については、藍檀先生と安原先生で相談して決めていただくこととする。
- Q. スーパーゼネコンは寄付対応だと思うが、寄付の時期はいつごろか。
- A. 来年度4月以降である。

以上より、シンポジウム YSRM2019 の企画書、予算案については基本的に承認された。

4. 国際シンポジウム Rock Dynamics について（清木、藍檀） 資料 29-常任 3-10
 シンポジウムの企画書および予算案について説明があり、以下の質疑があった。

- Q. 組織委員会と実行委員会のメンバーが重なっているが大丈夫か。
- A. 組織委員会には仕事を残さないように、基本的には実行委員会で運営することを考えている。
- Q. 慣例的には組織委員会の幹事長が実行委員会の委員長になるのが一般的ではないか。
- A. 沖縄開催ということもあり、両委員会の委員長は同じになっている。このメンバー以外に、琉球大学の助教等にも手伝ってもらう予定である。
- C. 組織委員会は最終的に人集めができる人の方がよい。
- Q. 組織委員会の幹事の記載がないが、清木先生ということか。
- A. その通りである。
- Q. 前回の理事会で指摘のあった委員の内諾は得ているか。
- A. 岩盤動力学小委員会のメンバーには内諾をもらっている。また、海外のメンバーについても連絡済である。
- Q. 海外の人はどのくらい来る予定か。
- A. 90名にメール出して、55名くらいから連絡があった。35~40人程度の参加があると思う。
- Q. 補助金を得るための最少人数はあるのか。
- A. 86ページの収入に記載の MICE の補助金（100万円）を得るのに、開催期間が2日以上であり、基本的に外国人を含めて県外から100名の参加者が必要である。また、100万円と別に30万円までの貸切バスなどの助成金を得るためには、外国人は30名以上、県外が50名以上の参加者が必要である。
- Q. 充填技術協会とは何か。
- A. 名古屋の協会である。
- Q. 充填技術協会と東北大学国際会議助成から支援してもらえる可能性は高いのか。
- A. 確実である。充填技術協会については40周年であり、金額は記載よりも増える可能性がある。
- C. 運営していく時に経費については連合会1本になる。登録料の振込や会議での使用等、JSRM 理事会で会議運営のよくわかっている人が組織委員会に入る方がよい。
- Q. 幹事長経験者として長田先生いかがでしょうか。
- A. 了解した。
- C. では、JSRM 理事会から長田先生に組織委員会に入ってもらっていただくことにしたい。
- Q. YSRM と同様にスーパーゼネコンの方々にメンバーに入ってもらってはどうか。
- A. ぜひそうしたい。
- Q. ゼネコンとして年に2回寄附を出すのは可能なのか。
- A. 難しい。動員でお手伝いすることは可能と思う。
- C. ゼネコンの名古屋支店の方と展示ブースを出してもらおう可能性について話をしている。
- C. ゼネコンの委員については、YSRM の委員と同様に、横尾理事、奥野理事、鈴木さん、青木さんをお願いすることにしてほしい。また、それ以外のメンバーについても、YSRM を参考にして、藍檀先生と清木先生で相談して決めてほしい。

以上より、シンポジウム Rock Dynamics の企画書、予算案については基本的に承認された。

5. 会員の入退会※（岡田）

資料 29-常任 3-03

平成 29 年 10 月 24 日～平成 30 年 1 月 29 日までの入退会状況が示された。議論の結果、賛助会員の住鉱資源開発の退会が承認された。一方、個人会員の小林隆志さん、連本英典さん、高橋直樹さん、瀬戸真之さんについては、長田理事に一度説得していただくことになった。また、工藤直矢さんについては、岡田幹事長が大成建設の青木さんに説得をお願いすることになった。山岡武司さん、藤井真希さん、佐藤直行さんの退会については承認された。

6. 各委員会の委員会の活動状況報告など

1) 編集委員会（谷）

資料 29-常任 3-14

活動状況が報告され、以下の議論があった。

- C. プロジェクト紹介の話題について何かあれば提案してほしい。
- C. 沖縄やんばる海水揚水発電所を廃止する話が出ている。これは土木遺産として重要なものなので、JSRM として重要性を指摘し、見直しを要望するなどできないか。
- Q. トピックスとして面白いし、タイムリーに書きたいが、誰に執筆をお願いしたらよいか。
- C. 電源開発の人は書きにくいと思う。
- C. 立場上、書きにくいのであれば、残すとか残さないという政治的な話ではなく、発電所の歴史のような視点で書いてもらってはどうか。
- A. では、まず電源開発のどなたかに執筆者の相談をする方向で進めることとする。
- Q. その他として、大林のトンネルが ITA アワードを受賞したので記事を書いてもらってはどうか。
- A. 表彰記ではなく、プロジェクト紹介として書いてもらうことにしたい。

以上より、提案のあった 2 つをプロジェクト紹介として進めることとなった。

2) 国際技術委員（横尾）

資料 29-常任 3-04

活動状況および次年度予算の概要が報告され、以下の議論があった。

- Q. 若手技術者の海外活動助成規定は公開されているのか。
- A. 公開されている。
- C. 規定では口頭発表が最も優先されている。口頭発表については他の助成もあるが、ショートコースのように助成を得る事が難しいものに対して参加を応援することが、元々のこの助成の趣旨であったように思う。

以上より、今年度は現規定で今回修正が提案された申請書で応募を行うこととなった。また、次年度については、海外活動助成の意義について委員会で再検討していただくことになった。

3) 電子ジャーナル委員会（岡田）

資料 29-常任 3-05

次年度予算の概要が報告され、幹事の交代が再確認された。特に質疑はなかった。

4) Rock Net 委員会（岡田）

口頭のみ

特に報告等はなかった。

5) 連合会賞選考委員会（岸田）

資料 29-常任 3-06

博士論文賞選考などの活動状況が報告された。特に質疑はなかった。

6) 総務委員会（岡田）

口頭のみ

特に報告等はなかった。

7) 賛助会委員特別会議（奥野）

資料 29-常任 3-07

活動状況および次年度予算の概要が報告され、以下のコメントがあった。

- C. 賛助会員へのアンケートの結果、賛助会員の表彰と講習会の開催のニーズがあることがわかった。賛助会員特別会議は賛助会員からの意見を吸い上げ、理事会に伝えるものであり、それを具体化する場合には、委員会で対応できるものは対応し、対応できないものは実施する体制を議論していかなければならない。本件については、将来構想フリーディスカッションの中で、また議論したい。

また、逝去された山本高司委員に替わり、原田克之氏が運営企画特別委員会の委員となることが

承認された。

- 8) ILC 研究企画特別委員会（横尾） 資料 29-常任 3-08
活動状況および次年度予算の概要が報告され、以下の議論があった。

- Q. 賛助会員のサービスについての話があったが、これは ILC 研究企画特別委員会の中の話と考
えていよいか。
A. その通りである。
Q. 年 3 回の意見交換会のネタはあるのか。
A. 地質、ILC と都市計画等のネタは結構ある。賛助会員が興味を持つような方向で考えていく。
Q. 意見交換会は賛助会員限定なのか。
A. その通りである。
Q. ロックネットに案内が出されるのはいつ頃か。
A. 2 月中を考えている。
Q. 賛助会員の入会は理事会に正式に認められてからということになるのか。
A. 正式にはそうであるが、申し込めば、その時点で意見交換会に参加できることにしたいと考
えている。
Q. 大学の先生は参加できるのか。
A. 今のところは賛助会員のみである。

- 9) 各委員会の平成 29 年度予算 資料 29-常任 3-09
今年度予算の執行状況が報告され、以下の議論があった。

- Q. 平成 30 年度の予算は、次回 6 月の総会前の 4 月から次年度予算となるのか。
A. その通りである。よって 3 月の理事会で承認される必要がある。

本日晒された各委員会の予算を含め、次回 3 月の理事会にて予算を確定することとなった。

7. その他

- 1) ISRM Franklin Lecture の推薦（新） 口頭のみ
3 役で相談し、安原先生を推薦したことが紹介された。特に意見はなかった。
- 2) ISRM Muller Award の推薦（新） 資料 29-常任 3-13
Muller Award の推薦について紹介された。次回 3 月の理事会までに候補者がいれば幹事長へ推薦
いただくこととなった。
- 3) ISRM Testing method commission の後任（新） 口頭のみ
後任については岸田副理事長にお願いすることとなった。特に意見はなかった。

8. 将来構想に関するフリーディスカッション 資料 29-常任 3-12
資料を基に以下の内容について議論した。主に以下の議論があった。

(1) 岩盤力学シンポジウムについて

- C. 統一してシンポジウムを行うのではなく、オーガナイズドセッションを企画する方向なら土木
学会の理解は得やすいと思う。
Q. 来年度の岩盤力学シンポジウムから提案のオーガナイズドセッションを実施するには、スケジ
ュールのにはどうすればよいか。
A. 4 月に実施される土木学会岩盤力学委員会の論文小委員会に提案しておく必要があると思う。
JSRM としてはどのようなセッションにするかを予算も含めて早めに議論しておくことが大事
である。
Q. セッション案について何か意見はあるか。
A. 連合会賞の講演を実施してもらってはどうか。
C. 連合会賞は、既発表のものが多く内容については吟味する必要がある。

(2) データベースや文献リストの活用・発展

- Q. 論文のタイトルをどこで探せるかという情報をまとめられないか。
A. 雑誌の情報やシンポジウム・学会発表等のリストなど、編集委員会で何かできるかを検討して
みたい。
C. 学会発表についてはプログラムがあるはずなので、そのような情報は集められるのではないか。

- C. 過去のものを手に入れるのが困難であれば、今後のものだけでもよいのではないか。
- (3)岩の力学ニュースの WEB 掲載
- C. 昨年、岩の力学国内シンポジウムの論文について、公開することを WEB 上で周知した事例があるので、それを参考にすればよい。
 - C. まずは会員限定で始めるのが無難である。RockNet 委員会に依頼して JSRM の会員限定ページを作る必要がある。
 - C. タイトル、著者の情報や、いつから PDF 化されているか、出版社が PDF を持っているか等については、編集委員会に調べてもらう。
- (4)賛助会員特別会議提案の講習会、表彰精度
- C. 講習会を実施する場合、新たに委員会を立ち上げる必要がある。
 - C. 講習会を実施する場合、会員増なのか、若手教育なのか、その目的を明確にするべき。
 - C. 講習会の後、本などを作り、そしてシリーズ化等すれば非常によい。
 - C. 土木学会では、若手の実務経験が少なくなっている中で、実務経験者の Q&A 集のようなものを作成しようという企画があるので、そのような企画と重ならないようにした方がよい。
 - C. 講習会については、理事会の前にやるなど、時間的に無理のない範囲で、20 名程度の方を対象にこじんまりとしたものにし、大学の先生に継続的に講義をしてもらうというのはどうか。岩盤工学の授業を受けたことがない人もいるので、会員限定で実施すれば会員サービスの向上に繋がるのではないかと。
 - C. CDP ポイントを出せるようにするとよい。そのためには JSRM で CDP の仕組みを作る必要がある。CDP は学会に証明をもらい、自己申告もできる。

9. 今後の予定

次回理事会は 3 月に実施する予定であり、メールで日程調整を行う。

※ 決議・承認事項

以上